

病院の 実力

～神奈川編 157

関節リウマチ

早期治療で変形防ぐ

薬の服用。早期に治療を始めれば関節の変形を抑えやすい。生涯つき合う病気、治療は長期に及ぶ。一覽表には、2019年の新規・再診患者数などを示した。

抗リウマチ薬だけで症状が

治まらない場合は、より効果が高い「生物学的製剤」を使う。注射や点滴で投与する。近年は、同等の効果が期待できる飲み薬の「JAK阻害薬」も選択肢になっている。

関節の変形が進行し、生

活に支障が出る場合は、金属製の人工関節に置き換えたり、骨を切るなどして形を整えたりする「手術」が行われる。

選択肢が多いだけに治療を検討する際は、経験豊富な日

本リウマチ学会の専門医に相談したい。表には、各医療機関

関の「専門医」の人数も掲載した。

喫煙・歯周病の関与も

聖マリアンナ医科大学病院

川畑仁人



リウマチ・膠原病
生涯治療センター長

が重要であり、時に超音波検査などを組み合わせる総合的に行うため、専門医にかかることが求められる。

現在は薬剤や治療法が進歩し、しっかり治療すれば症状がほとんど表れなくなる人が4割を超える。ただ、具体的な予防方法は確立しておらず、早期発見、早期治療が最も重要だと言える。

子供や妊婦、高齢者にいたるまで、ライフステージごとに治療方法も異なる。3年前に開設された当センターでは、内科や整形外科、小児科が緊密に連携し、個人に合わせた医療を提供できるようにしている。救急でも対応が可能で、いつでも患者を受け入れられる体制を整えている。

今回は関節リウマチを取り上げる。

関節で炎症が起き、放置すると軟骨や骨の変形が進む病気が。免疫機能の異常で起きるとされるが、原因は分かっていない。手足をはじめ、全身の関節に腫れや痛みが生じるほか、発熱や倦怠感なども出る。患者は推計約82万人で、女性が4分の3を占める。発症のピークは60～70歳代だ。治療の基本は、抗リウマチ

病院の実力「関節リウマチ」

医療機関別2019年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	新規・再診患者 (人)	生物学的製剤な どを使用(人)	関節手術 (件)	専門医(人)
東海大	7084	575	18	5
横浜市大病院	2663	352	26	14
横浜市大市民総合医療セ	2217	558	95	6
聖マリアンナ医大横浜市西部	1899	437	27	3
聖マリアンナ医大	1850	620	60	13
北里大	1526	289	18	9
湘南鎌倉総合	1522	200	3	2
市立川崎	1521	302	11	2
横浜南共済	1406	517	16	4
横浜労災	938	248	16	3
平塚共済	736	132	27	2
横浜市立みなと赤十字	685	255	4	1
川崎市立井田	366	56	16	4
横浜栄共済	365	24	5	1
横浜市立市民	325	78	24	4
座間総合	300	60	20	2
南大和	218	25	1	1
済生会横浜市南部	166	24	16	3
昭和大横浜市北部	150	18	20	3
小田原市立	148	43	3	2
山近記念総合	125	11	1	1
帝京大溝口	119	20	5	1
新百合ヶ丘総合	116	9	2	1
厚木市立	75	7	2	1
東戸塚記念	53	23	3	3

「セ」はセンター

関節リウマチは膠原病の一つで、関節症状が主だが、間質性肺炎や血管炎を引き起こす場合もある。

原因はいまだに不明な点が多いが、一部の患者の罹患の要因として知られているのは喫煙だ。喫煙が免疫系に影響を与え、炎症を引き起こすとされている。歯周病の関与も示唆されている。

初期症状では、朝に手がこわばったり、指の関節が痛く

なったりする。個人差はあるものの、発症してから2、3年は特に進行が速い。進行すると、手が変形して箸やペンなどが持てなくなったり、下肢の関節症状により歩行や階段昇降に支障が生じたりする。その結果、日常生活や仕事にも影響が出てしまう。機能障害が起きる前に治療をすることが不可欠だ。

診断は、X線検査や血液検査も行われるが、問診や診療

全国の調査結果は16
日の「安心の設計面」
に掲載しました。